



天津 Tainjin

天津への広告のお問い合わせは
022-2745-0642

いまや遅しの建設ラッシュ 大都市へ変貌する天津の息吹

建設中のビル群…。中国では見慣れた光景かもしれません。しかし天津ではごく最近になって、急ピッチの建設ラッシュが始まった感があります。

ご承知のとおり、天津は上海、北京に次ぐ直轄市のひとつ。しかも同じく直轄市である内陸の重慶と違って沿海部に位置し、首都北京に近く、流通の利便性が極めて高い場所です。しかし、初めて天津を訪れた人は、メトロポリタンな都会と比べて余りにも平坦とした街並みに驚かれるようです。

確かに摩天楼のような景観はどこにも見当たりませんし、大規模な都会的ショッピング街も1ヶ所だけ。建設ラッシュの始まった15年くらい前の沿海都市を彷彿とさせます。中には30年前にタイムスリップしたみたいだとま

と言う人も…。

でも見方によっては、ほぼ開発し尽くされ様相の他の大都市に比べ、手付かずとまではいきませんが、目を追ってますます発展する天津に興奮を覚えずにはいられません。10数年前の経済特区を体験した方なら、なおさらのことでしょう。何でもありのカオス状態が天津で繰り広げられています。

かつて大都市が放った息吹を感じたい方は是非一度、埃っぽいけど熱気に満ち溢れた天津を訪れてみてください。

(Whenever 天津 持田吉彦)



大連 Dalian

大連への広告のお問い合わせは
0411-8230-9668

みんなで歌って中日交流 歌声喫茶「ともしび」が大連に

3月1日、西崗区の「主題沙龍」(IDEA SALON)で「歌声喫茶 in 大連」が開かれ、中国人や日本人約40人が「北国の春」や「中国東北地方の子守歌」などをピアノやアコーディオンの伴奏で合唱し、楽しいひと時を過ごしました。

この会は、新宿の歌声喫茶「ともしび」の大野幸則さんが、今年5月のアカシア祭を前に企画したもので、アカシア祭では約30人の日本人が大連を訪れ、中国の人たちと一緒に



歌詞カードを手に歌う参加者たち

なって中国の歌、日本の歌、ロシア民謡など万国共通の歌を歌い交わし、新しい交流の波を興す計画です。

歌声喫茶は日本で昭和30年代に流行した飲食店の一形態ですが、現在でも若者を含め、常連客たちの根強い人気に支えられています。

大連アカシア祭は1989年から始まり、1992年、国家観光局によって国家級の観光祝日事業として正式に認定されました。国内外から多くの観光客を集めており、大連の重要な観光資源の1つにもなっています。

(whenever 大連 石橋雄二)

Data

IDEA SALON
主題沙龍
住：大連市西崗区高橋街3号
電：0411-8370-7163

CHINA DE MANBU

中国各地で発行するWheneverシリーズ。今月の各地域注目の情報をお届けします。



蘇州・無錫 Suzhou&Wuxi

蘇州・無錫への広告のお問い合わせは
蘇州0512-6805-0299
無錫0510-8546-3168

うららかな春の昼下がり 蘇州でのんびり下町散策を

「ウェネバー蘇州無錫」版4月号の特集は、「春の街歩き特集」。蘇州無錫の街にも春のお散歩にピッタリな、ちょっと雰囲気の良い路地がたくさんあります。特にお勧めなのは蘇州の「平江路」と「山塘街」。いずれも蘇州市中心部の小さな運河沿いに位置する、古い小さな通りです。「山塘街」の方は観光地化されていて外国人観光

客の姿も多いですが、どちらも現役の生活道路でもあり、蘇州ならではの昔ながらの風情を楽しめます。

古びた石橋、その下を潜る手漕ぎ舟、運河で野菜や洗濯物を洗う地元の人々…。そんな風景の中で暖かい日差しを浴びながら、のどかな春のひと時を過ごせるはずです。

(Whenever 蘇州無錫 長野由起子)



平江路の風景



記念撮影をする人も多い山塘街



上海 Shanghai

上海への広告のお問い合わせは
021-6299-5518

歴史文化を身近に 博物館と記念館 無料開放スタート

上海では、先月10日から4カ所の博物館と記念館の無料開放がスタートした。これは、中央政府の方針を受けたもので、北京や武漢などいくつかの都市では、すでに実施されているが、上海では今回が初めて。

無料開放となったのは、「中共一大会址記念館」「上海博物館」「上海魯迅記念館」「陳雲故居と青浦革命歴史記念館」の4カ所で、特別展が開催される場合を除き、無料開放は今後永久的に続くとのこと。

いずれの施設も歴史的価値の高い素晴らしい施設なので、今回の無料開放は、市民はもちろんのこと、留学生や上海在住の外国人にも歓迎されている。

そういう筆者も上海博物館の大ファン。所蔵品は約100万点にもものぼり、紀元前10世紀

に作られた鼎や青銅器など世界的にも貴重な文化財を間近に見ることができて、何度訪れても飽きない場所だ。これまで入場料は20元だったが、これからは無料で観覧できるのうれしいニュースだった。上海を訪れた際は、是非足を運んでみてください。こうした無料開放は、今後、他の博物館や記念館でも徐々に導入される予定。中国の歴史や文化が、より身近に感じられるようになるだろう。(Whenever 上海 永島雅子)





CHINA

CHINAへのお問い合わせは
021-6299-5518

China

日本人シニアが中国で大活躍 ホテル業界に挑む72歳

「最近の日本人は元気がなくなった」と揶揄する声を聞くが、戦中派から団塊の世代までの日本人のパワーには本当に驚かされる。中国でもそうした先輩方がたくさん活躍している。

上海現地シニアの会をご存知だろうか。上海で現地採用として働く45歳から68歳までの日本人60名が所属する団体だ。メンバーの業種は製造業からサービス、貿易、建設、医療、飲食などと様々。親睦と助け合いを目的に年数回、会合を開いている。今年、蘇州に支部を設ける計画で、メンバーはますます増えていく様相だ。

そうした中、またひとりの日本人シニアが新たな挑戦に踏み出した。長田藤治氏、72歳。元藤田観光常務取締役で、日本でワシントンホテル40軒余り

を企画開発してきた経歴を持つ。「日本のホテルは海外で勝負しなければダメ」が持論の長田氏



長田藤治氏

は、上海に今年4月オープン予定の華信頓（上海）酒店の取締役最高顧問に就き、企画から管理、運営までを担当する。

同ホテルの客室料金は300元前後。広々とした客室に、バスタブや冷蔵庫を設置し、ワンクラス上の「経済型酒店」となっている。「中国のお客様に喜ばれるホテルが作りたい」、かしくとした様子で話す長田氏。「中国に500店舗のホテル建設」とスケールの大きな夢を描く。(WheneverCHINA 岩下祐一)



杭州・寧波

杭州・寧波へのお問い合わせは
0571-8506-3280

Hangzhou&Ningbo

中国最大級の巨大市場・義烏は、 エキゾチックな香りがぷんぷん

最近、とみに耳にする街、浙江省「義烏」。ただこの義烏、以前まではあまり日本人には縁の無い地域でしたが、ここ数年一部の日本人が訪れる様になり、あっという間にネットの中で一躍有名に。そう、中国にお住まいの読者の方なら既にご存知の方も多はず。あのダソーや日本のオークショニアの仕入れ先として名高い「巨大市場」がある街なのです。また日本のみならず、全世界のバイヤーがシノギを削っています。



中東系の人で賑わう軒先。優雅に店先で水パイプを燻らすのも良いかも？

州北路沿いにある看板料理店だけでなく、クラブやバーなど繁華街として有名



中でも、昔から中東系のバイヤーに大人気だったこの義烏。その証拠に、街中の看板にアラビア文字が目につきます。加えて、市内の州北路付近は別名「エキゾチック・ストリート」と呼ばれ、ウイグル料理をはじめイスラム圏の料理店が目白押し。オープンテラスのあるお店では、水パイプを提供する所も。一風変わったその光景は、まさに中国のザ・ミドル・イースト！と言えるでしょう。

(Whenever 杭州・寧波 櫛山聡)

スタイリッシュなアーバンライフを体感



ラグジュアリー・サービスレジデンス

建開門ビジネスエリアに位置するラグジュアリー・サービスレジデンスは、長期でも短期でも、ビジネスでもご旅行でも、あらゆる目的を満足させる、きめ細やかなサービスを提供します。落ち着いた住宅区にしながら、建開門とCBDの華やかさ、ショッピングスポットや一流のプライベート空間をたっぷりお楽しみください。行き届いたサービスで、皆様にスタイリッシュなアーバンライフをもたらします。



建開門/業務エリア



電話でのご予約・お問い合わせは、中国予約ホットライン400 820 1028 或いは www.the-ascott.com へ
ラグジュアリー・サービスレジデンスはアスコットグループの会社です。アスコットインターナショナルは、アジア、ヨーロッパ、世界中に130以上の事業を手掛ける世界最大規模のサービスレジデンスオペレーターです。世界23カ国、50都市にて、アスコット、サマーセット、シチズンズグループを展開しています。



広東 Guangdong

広東へのお問い合わせは
広州020-8331-2477
深圳0755-8203-9056

めったに見られない豪華競演 「広州名人会」開催

3月18日に広州・東方賓館で、「広州名人会」（主催：広州日本商工会、後援：在広州日本国総領事館、協力：広州日本人学校、協賛：日本航空）が開催されました。

07年度広州日本商工会総会に続き行われたこの会は、商工会報に連載している「東京やなぎ句会」のメンバーによるもの。落語家・入船亭扇橋師匠が宗匠を務める同句会は、1968年に発足、永六輔、大西信行、小沢昭一、加藤武、柳家小三治、矢野誠一という落語家、作家、俳優のそうそうたるメンバーが集

まる由緒ある句会です。

当日は、永さんの司会で、まず加藤、大西、矢野各氏が広州の感想とともに、前日訪れた市場を描いた「春めきて喧嘩賑なる値切り声」（加藤さん）など、この地で詠んだ句を紹介。続いて、小沢さんが今話題の「後期高齢者」について話し、ハーモニカ演奏を披露。「古い曲ばかり演奏していて、“モーニング娘”。ではなく“イブニング館”だけれども、昔の歌をやると、その頃の気持ちに戻る。これがボケ防止になる」と述べると、会場から拍手が起こりました。

さらに、扇橋師匠が「穴どろ」、小三治師匠が「千早ぶる」と、古典落語を披露。日本でもめったに見られない豪華キャストイングの名人会、会場はしばし笑いの渦に包まれました。



柳家小三治師匠が「千早ぶる」を披露